

令和 4 年度

福島県 集落自主活動に係る伴走支援事業

南会津町耻風地区 実施報告書

獨協大学 大竹ゼミ

指導教員 経済学部国際環境経済学科 大竹 伸郎

[目次]

1. はじめに	- 2 -
2. 今年度の取り組み.....	- 2 -
2.1. サマーキャンプ企画検討	- 2 -
2.2. 南郷トマト農家でのアルバイト	- 4 -
2.3. 「獨協大学環境週間 “Earth Week Dokkyo 2022～Summer～”」 における物産展の開催.....	6 -
2.4. 「獨協大学環境週間 “Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”」 における物産展の開催	- 7 -
2.5. ハスの栽培研修の参加	- 10 -
3. 次年度以降に向けた企画の提案	- 11 -
3.1. 地域活性化プロジェクトの継続化に関する提案.....	- 11 -
3.2. SNS を活用した耻風地区の広報強化に向けた提案.....	- 11 -
3.3. ホームページを活用した耻風地区の広報強化に向けた提案.....	- 12 -
4. おわりに	- 12 -

1. はじめに

獨協大学地域活性化プロジェクト大竹チームは、齊藤（国際環境経済学科 3 年）、蜂谷（同 3 年）、樋山（同 3 年）、湯田（経済学科 2 年）、井上（同 2 年）、安本（経営学科 2 年）、伊東（国際環境経済学科 2 年）、高野（同 2 年）、小林（同 2 年）の 3 学科 9 名からなるチームである。さらにサポーターとメンバーとして、陳（経営学科 4 年）、高村（経済学科 3 年）、和田（経営学科 2 年）も加わり、計 12 名で活動している。

本プロジェクト始動時より継続する耻風地区の交流人口・関係人口の増加に向けた取り組みに加え、今年度は地区訪問の交通費及び宿泊費等の遠征費の捻出を兼ねた新規企画の立案に取り組んだ。企画立案の方針としては、企画の提案・実証実験・実証結果からの検討を行った。また、例年出店している“Earth Week Dokkyo～Summer～”や“Earth Week Dokkyo～Winter～”での耻風の特産物販売や地域の PR 活動においては、PR 効果向上に向けて取り組んだ。

本報告書は、こうした取り組みについて詳細にまとめたものであり、構成は以下の通りである。まず第 2 節で、実証実験として行った様々な活動についてまとめている。第 3 節では、次年度以降に向けた企画の提案をし、第 4 節で本報告書の結びとする。

2. 今年度の取り組み

2.1. サマーキャンプ企画の検討

今後の耻風地区訪問の交通費及び宿泊費等の遠征費の捻出に向けた新しい企画として、まずは企画案を検討した。企画候補は、サマーキャンプ、蕎麦打ち教室、漬物の商品化、山菜調理動画、クワガタ採りのための林道づくり、キッチンカーの手伝いであった。そのうち、地区の魅力をもっと PR できるか、交流人口増加につながるか、収益化を図れるかなどの観点から、草加市周辺の子供を対象に”耻風サマーキャンプ企画”への企画に決定し、実証実験に取り組んだ。具体的な取り組みは以下のとおりである。

・期間 8/20～21

・メンバー 3 年 蜂谷

2 年 湯田

和田(サポートメンバー)

・目的 耻風地区で夏のサマーキャンプを計画するための下見

今年度は、来年度から計画を考えている耻風地区でのサマーキャンプのための下見を目的に、8月20日(土)21日(日)の二日間にかけて耻風地区に訪問した。

・バスによる移動の検討

仮に耻風でのサマーキャンプを行う場合、会津高原尾瀬口→耻風までの移動はバスになるだろう。バスの座席は約40席。私たちが訪問した時には半分くらい埋まっていた。もしもツアーを計画するならば、席の確保をするか、人数を制限する必要があるかもしれない。

・ 館岩川の調査

耻風集会所の目の前には館岩川が流れており、ツアーで使えないかと考え、調査した。水はとてもきれいだったが、はだしで歩くと岩が多くて痛かった。川に入ると、岩が多く滑るうえ、意外と深い(ひざ下くらい、それよりも深いと所もあった)ので、小学生には危険ではないかと思った。

・ ラフティング体験

2日目には、南会津町川の学習体験交流センターで、ラフティングを体験させていただいた。ラフティングについてのお話もいろいろ聞くことができた。ラフティングのボートは8人乗りで、ガイドが1人乗るので最大7人まで乗ることができる。10歳以上が対象。所要時間は2時間ほど。事前に予約が必要で、サンダル、水着、タオルがあれば参加可能。「1, 2, 1, 2」と掛け声をあげてパドルを漕いで進み、うまく進めたらみんなでパドルを合わせて喜ぶ。みんなで力を合わせて進むので、一体感が生まれとえも楽しむことができた。ツアーの目玉企画として組み込むのが良いのではないかと思った。雨が降るとできないことが課題である。

・ ハス畑、そば畑ライトアップ

ハス畑でのライトアップを計画していたが、当日までに発電機や電球を準備できなかったため、この訪問中に実行することができなかった。

・ キャンプスタイルでの食事

直売所裏の窯を利用してキャンプスタイルでの食事を検討し、特産品のそば粉で調理したピザの試作を行った(写真1)。具材には、周辺農家の南郷トマトや直売所で売れ残ったバジル、地区で採れた山菜などをトッピングし、直売所裏にある釜を利用して焼き上げた。レシピは表1のとおりである。食を通して地区の魅力を体験できる企画となるのではないかと考えた。地区の方々と食卓を囲むことで、交流を深める機会をつくることを想定した。今回は直売所内で、ピザの調理を行ったがスペースの問題で大人数での作業は好ましくないことが分かった。生地から調理を行ったため、完成まで1時間半ほど時間を要した。そのため、サマーキャンプで実施する際には前持った準備や役割分担が必要である。

・ 検討結果

ラフティングなど、参加者の子供たちとともに楽しめるアクティビティを体験したが、対象年齢設定や、天気によって左右されることなどの課題点が見つかった。ラフティングだけでなく、バス移動の座席の確保なども課題である。また安全面での問題から保護者や身体障害者の参加の際の対応なども大きな課題点であると考えた。以上の実証結果をもとに、地区の方々と話し合い再度検討を行ったところ、学生企画とはいえ人の命を預かるため徹底的な対策

や対応をあらゆる面から想定し検討する必要がある、長期的な検討期間を要する企画なのではないかという意見にまとまった。また、一般公開している耻風についての情報量が少ないことから、地区訪問への不安感などが非常に大きいと考え、SNS や web ページなどを活用し、まずは公にむけた地区の PR に力を入れて取り組むべきであると考えた。以上のことから、サマーキャンプ企画の将来的な実現に向けて活動実績を積む必要があるとの結論に至った。

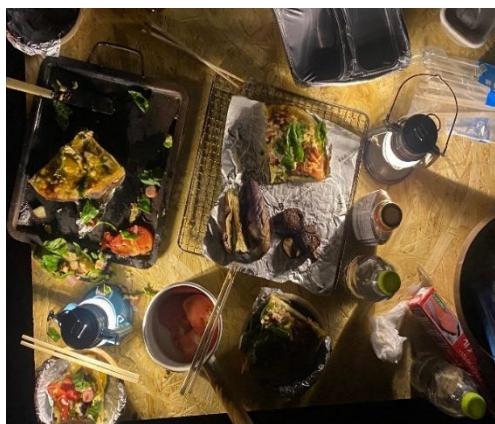


写真 1 そば粉ピザ施策の様

表 1

蕎麦粉：小麦粉	6：4
水	適量
トマト	1 個
シイタケ	4 個
ウィンナー	1 袋
バジル	適量
ケチャップ	適量
チーズ	適量

撮影日 2022 年 8 月 18

2.2. 南郷トマト農家でのアルバイト

今後の耻風地区訪問の交通費及び宿泊費等の遠征費の捻出に向けた取り組みとして、農家でのアルバイトを想定し試験的に取り組んだ。耻風地区周辺の地域では南郷トマト農家が多くあるため、学生が働き手として加わることで耻風地区と周辺地域との関係性を生み、関係人口増加へのアプローチも同時に見込み検証を行った(写真 2, 3)。期間は 8 月 10 日から 9 月 18 日にかけて行い、計 4 名のメンバーが参加し最大 1 名から 2 名ずつの滞在となるよう約 7 日間～約 40 日間住み込みでのアルバイトを実施した。受け入れ農家は、南会津町水根沢の南郷トマト農家で、普段はアルバイトを雇っておらず夫婦 2 人での作業を行っているが今回は試験的に時給 900 円で雇用していただいた。トマトの収穫開始に合わせ 8 月 10 日から作業に加わった。最もトマトの収穫量の多いお盆の期間は、午前 5:30-8:30 の約 3 時間、トマトの収穫・はね出し・集荷・葉の剪定等の作業を行った。8 月下旬頃からはトマトの収穫量の減少とともに、時間は 2 時間ほどに減少した。9 月に入ると更に収穫量は減少し、メンバーが参加して行う作業は 2 日に 1 度程度の実施となった。以上のことから、トマト農家でのアルバイトを行う時期については、トマトの収穫量の多いお盆の時期を中心に行うことが最適であることが分かった。また、南会津町では多くの南郷トマト農家で人手

不足が生じていることが今回の活動を通して明らかとなった。そのため農家でのアルバイトは遠征費捻出への実現可能性が高く、周辺地域との関係性の構築も同時に図ることができる取り組みであると考え。

今後この取り組みを実施する際の課題点としては大きく2つある。1つ目は未経験メンバーが作業に加わることによる作業効率性の問題、2つ目は農家までの移動手段がないということだ。まず作業効率の問題への対策としては、事前に作業の取り組み方や留意点などについて知識を身に付ける必要があると考える。実際に作業を行ったところ、はね出しの判断が非常に難しいと感じた。今回、学生メンバーが作業に加わったことによってトマトの集荷後に行われるランク分けの選定結果が悪化してしまうという事態が起きた。そこで、作業方法やはね出しの対象となるトマトを写真とともにトマト収穫作業についてまとめた資料を作成した(資料1)。その結果、作業要項を可視化させたことにより通常レベルまで選定結果を戻すことができた。今後は、事前に受け入れ農家とのミーティングを行うなど知識を身に付けることで対策をとっていきたい。また、農家までの移動手段に関しては、今回は耻風地区住民の方から2台自転車を借りることで対応したが、今後は活動時の移動手段のための自転車購入の検討の余地がある。

滞在中は南郷トマト農家での作業以外に、耻風地区直売所での店番や販売品の袋詰め作業、売り場の整備などの手伝いを行った(写真4,5)。主な販売品はキャンプ用品で、日替わりで周辺農家からはね出しトマトやかぼちゃ、ちたけなどである。キッチンカーではコーヒーやかき氷の販売も行った。来客頻度は、天候によって大きく左右されたが通りかかった観光客や県内住民が多く訪れた。直売所は道路に面しており車通りも多いため、立地としては集客を見込みやすい環境にある。また、直売所は店主都合により頻繁には営業できていないとのことだったため、学生が手伝うことで営業日を増やせるのではないかと感じた。



写真2, 3 作業の様子

撮影日 2022年8月15日

トマトの収穫のやりかた

1. 裏側が赤くなってきているトマトを収穫する

2. 軸を親指で押さえて捻る

3. 軸を根元から切る

4. ヘタの先っぽが枯れていればカットする

5. ヘタが下になるようにコンテナに入れていく

6. はねだしは小さいコンテナに入れる





7. まだ青いトマトを収穫してしまった時は、コンテナに入らず下に置いておく

8. 下の段に青いトマト、上の段に赤いトマトの2段に並べてコンテナを車に積む

9. トマトが入ったコンテナは、コンテナの色(水色、青)を揃えて重ねる

はねだし(規格外品)

知っておくべきこと

 ヘタがない	 尻ぐされ	 花萼が1円玉サイズ以上
 点が6個以上	 ツジが生えている(奇形果)	 キズが全体の3分の2以上
 サイズが小さい	 尻に赤くなっている(過熟)	 目立つ割れがある

資料1 トマトの収穫作業について



写真4 販売の様子



写真5 直売所内の様子

撮影日 2022年8月12

2.3. 「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Summer～”」における物産展の開催

「Earth Week Dokkyo」は、獨協大学の国際環境経済学科・環境共生研究所が環境保全の啓蒙活動の一環として開催するイベントである。福島県耻風地区の特産品や工芸品を通して獨協大生、獨協大学職員、草加市民に耻風について知ってもらうことと耻風班の新たな活動資金確保を目的として、6月27日から7月2日にかけて行われたEarth Week Dokkyo 2022～Summer～で物産展を開催した(写真6,7)。また、7月1日には耻風地区の特産品である蕎麦粉を利用した料理の一つであるガレットの販売を行った。売上は図表12のとおりである。

この物産展を通して、獨協大学内外の人々に産物の販売や販売所の掲示物からこの事業や耻風地区について興味を持ってもらうことができた。特に、食品に関しては周辺地域の主婦層や大学職員から多くの評価を得ることができた。また、最終的に48,381円の利益を生み出しそれを新たな活動資金に充てることができた。

反省としては、ガレット販売の決定が遅れたことで施設利用の手続きに大きなミスが生じてしまい販売を中止せざるを得なくなってしまった。また、食品が完売した一方で工芸品の売れ残りが目立つ結果となった。さらに、価格設定がうまくできなかつたがために途中から乾燥しいたけと乾燥スライスシイタケを値下げすることになってしまった。余裕をもって手続きを行うために計画性を高めて販売品目の確定を早めるとともに、販売品に対して価格をよりの確に調節することや、新たな付加価値をつけることでより耻風地区の特産品や工芸品に興味を持ってもらえるよう工夫していきたい。



写真6,7 「Earth Week Dokkyo 2022～Summer～」で物産展を開催した時の様子

撮影日 2022年6月27日

2.4. 「獨協大学環境週間“Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”」における物産展の開催

上記同様、冬季開催の12月12日から12月17日にかけて行われた”Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”で物産展を開催した(写真8,9)。また12月16日にはそば粉を利用したガレット販売を行った。夏季開催の反省を踏まえて、計画性を高めて販売品目の確定や価格設定に取り組んだ。販売品に関しては、実際に仕入れ先を訪れて決定し、酒類に

関しては耻風地区の方々に選定いただいた銘柄を仕入れた。また季節を加味した新商品の仕入れなど、商品の種類を増やし、前回売れ行きの良い商品は在庫を多く仕入れるよう調整した。また、工芸品はやすりで磨いて販売した。

今回の物産展では、商品に関する掲示物を増やしたことにより、来場した大学内外の多くの人々に耻風地区やプロジェクトでの取り組みについて知ってもらうことができた。商品の種類を増やしたことでより多くの地区の特産品に興味を持ってもらうことができた。また、他チームと合同での出店となったためより集客効果が得られた。売れ行きに関しては、酒類とトマトが初日に完売し、餅類、裁ちそば、新鶴うどんなどの季節商品が多く売れた。今回の最終利益は33,679円で夏季開催時よりおよそ15,000円減少した。全体的な売れ残りが原因と考えられる。また、今回は作成した広報用チラシ1,000枚を周辺住民へポスティングしたため、より多くの来場者が訪れた(資料2)。例年の来場者の年齢層から、集合住宅よりも戸建てを中心にポスティングを行った。今回の成果より、次年度以降も周辺住民へのポスティングを継続していきたい。販売の準備・片付け作業については、手順や大学からの借用品の管理方法、在庫品の管理場所を画像とともにチーム全体で共有したため、スムーズに執り行うことができた。

反省としては、販売商品を増やしたことで在庫品の把握がうまくできていなかったため、最終的な収益と在庫数が合わず釣銭に過不足が出てしまった。そのため今後は、日ごとの売上数や売上金を集計するだけでなく、在庫品とも照らし合わせて記載漏れがないか厳密に確認する必要がある。また、ガレット販売では他商品の販売とガレット調理を同時に進行するため人手が足りず、調理できるガレットの数自体が少なくなってしまった。ガレット販売は、耻風の特産品であるそば粉を実際に味わっていただくことで地区をPRす



写真 8.9 「Earth Week Dokkyo 2022~Winter~」物産展の様子

撮影日 2022年12月

12/12(月)～12/16(金)

福島県 南会津町 物産展



販売時間 11:30～14:30



乾燥しいたけ
乾燥まいたけ
乾燥キクラゲ
トマトドレッシング
南郷トマトジュース

そば
そば粉
そばの実
うどん
青トマト

新米
白餅
地酒
木皿
など



場所 獨協大学学生センター1階外側
埼玉県草加市学園町1-1

大竹ゼミ耻風班は福島県会津町の自然豊かな耻風地区を盛り上げるために、地域の方々と協力して活動しています。この機会に南会津の特産品を食べ、多くの方に美味しさを実感していただきたいです。

企画 大竹ゼミ耻風班
主催 国際環境経済学科・環境共生研究所
運営 Earth Week Dokkyo 実行委員会

資料2 広報用のチラシ

ることができるため今後はいっそう力を入れて、販売数を増やしていきたい。また、アースウィークで食品販売を行うプロジェクトは少ないため、より注目を集め集客面での効果も期待できる。改善案としては、最終日のガレット販売までに他の販売品をすべて売り切り、最終日はガレットの調理・販売のみに注力するという方法を考えた。こうすることで、人手が販売と調理に分散することなく少ない人手でもガレット調理・販売を行うことができる。また、今回の物産展では期間中複数回来場する方も多かったため、最終日までにガレット販売の実施を訴求することで効果的な集客が見込める。物産展では、地区のPR

を図るとともに地区訪問の遠征費として活動資金を得る必要がある。そのため、利益率の良いガレット販売に注力するなど戦略的な販売で収益の増加にも取り組んでいきたい。

2.5. ハスの栽培研修への参加

耻風地区にハスを納品している新潟県のハス専門店に訪問し、ハスの栽培方法に関する研修をおこなった（写真 10）。主にハスの繁殖方法、管理方法などを学んだ。ハスの繁殖方法には、種子繁殖と株分けによる繁殖の方法がある。詳細は表 2,3 のとおりである。現在、耻風のハス田では、十分な管理が行き届いていないという。だが、耻風地区としては継続していきたい取り組みであるので、今後はハス田の管理の手伝いや、ハスの種を持ち帰り学内で栽培するなどを検討していきたい。学内で栽培することによって、耻風地区での継続的なハス栽培への支援や耻風地区の PR 効果を高めること期待できる。

表 2 ハスの種子繁殖の方法

1	水を張ったカップに種子を入れ、沈んだものを基本的に使用する。浮いてしまう種子でも発芽するが、沈んだ種子の方が発芽しやすい。
2	種子に水を吸わせるため、種子の尖っていない方の面を中身の白色部分が見えるまで削る。種子の殻は硬いため、グラインダーやニッパーなどを使用する。
3	カップに水を張り、種子を水に浸す。明るい場所で管理し、水温が上がりすぎないように注意する。数日から 1 週間ほどで発芽する。
4	葉が展開し、根が 5cm 程に伸びたら植替えを行う。
5	植え替えは、ポットに 1/3 程度の土を入れ、苗を植え込み、水を張る。土は、硬い土や砂などを避け、田んぼの土など水持ちの良い粘土質の土が好ましい。
6	蓮根ができ、浮き葉がでてきたら徐々に水深を深めていく。

表 3 株分けによる繁殖の方法

1	・掘り起こした蓮根の泥土を取り除く。※蓮根の先端(頂芽)や節から出る新芽を折らないように注意する。(ポットや鉢で育てたものであれば、掘り起こす必要なく鉢をひっくり返すだけで蓮根部分が出てくるので楽に作業を行うことができる。)
2	・蓮根の先端から 2 節半または 3 節半でカットする。(必ず頂芽を含める。)
3	・土を鉢の半分の深さ以上で入れ、蓮根を土に植え付ける。(植え付ける蓮根は 1 鉢につき 1 つのみにする。)
4	・植え付けは、新芽を上に向けて、頂芽が下向きになるよう土の中に入れ、蓮根が隠れる程度に土を被せていく。(蓮根が浮かないように注意する。)
5	・空気に触れないよう、たっぷり水を張る。



写真 19 研修の様子

撮影日 2022 年 11 月 5 日

3. 次年度以降に向けた企画の提案

3.1. 地域活性化プロジェクトの継続化に関する提案

今年度当初に検討していた草加市周辺の子供向けに行う” 耻風サマーキャンプ企画” に代わり、” 耻風そば打ち体験教室” を提案する。内容としては、草加市周辺の住民を募り学内施設にて耻風地区の方の指導の下、そば打ちを行うというものだ。学生は参加者の募集、企画の司会・進行等を行い、体験中は体験者のそば打ちのサポート全般を行う。そのため、開催前までにオンラインまたは対面で学生のそば打ち研修を行う必要がある。またこの企画では、体験者からの参加費を今後のプロジェクトの活動費に充てようとする。開催にあたっては、こまめなアルコール消毒や換気などコロナウイルスへの対策も万全に行う。この活動によって、特産品であるそば粉を活用した草加市での耻風の PR 効果や、実際に地区の方々との交流を通して地区との関係人口の増加を期待する。

3.2. SNS を活用した耻風地区の広報強化に向けた提案

耻風地区についての認知を促すため、Instagram を活用した広報強化に向けた提案を行う。耻風地区住民や地域の景観、学生の活動などを掲載することで広報強化に取り組む。地区の近況や様子に関しては、地区の方と頻繁に連絡を取り、イベントや季節の写真、会議の様子を報告していただくとともに写真も送っていただく。実際に冬季開催の物産展（” Earth Week Dokkyo 2022～Winter～”）では、試験的に開催中 5 日間の様子を掲載した。ハッシュタグを用いて掲載したことで、活動や地域に興味のある方からの評価を得ることができた。今後は、SNS 投稿の目的意識や掲載内容を耻風地区の方々と学生間で綿密に共有していく必要がある。掲載頻度や掲載内容、広告機能の活用により、さらに大きな宣伝効果を得ることが予想される。

3.3. ホームページを活用した耻風地区の広報強化に向けた提案

大竹ゼミ耻風班は更なる認知の拡大のためホームページの刷新を行っている。今回の刷新の目的はより利用者の使用を拡大するためのものであり、追加要素として耻風地区の紹介に加え、獨協大学にて行われる物販イベントの紹介等も行うことでよりホームページを見る人数を増加させ興味を持ってくれる人数の増加に繋げていきたい。

4. おわりに

今年度は、コロナウイルスによる行動規制の緩和を受け、昨年度までの地区訪問の自粛から本格的に再始動した年となった。オンライン授業と対面授業のハイブリッド型授業が続く中、オンラインミーティングに切り替えるなど対応しながらメンバー間での活動の企画・検討を行った。また、地区の方々とのコミュニケーションではZOOM会議やグループチャットを状況に応じて用いたことから、より円滑な意思疎通を図ることができるようになった。今年度は、オンラインと対面の多様なコミュニケーションを経験することとなったが、プロジェクトの進行において地区の魅力や、地区の方々の魅力を知るうえでは、実際に地区を訪問し、地区の方々と直接顔を合わせてコミュニケーションをとることが最も重要であると感じた。また活動外でも、地区の方のご厚意で釣りやゴルフ、キノコ狩りに連れて行ってもらうなど地区の方々の温かい人柄に触れることができ、更に関係性が深まった。次年度以降も、頻繁にコミュニケーションを図ることで地区との関係性を密にして、プロジェクトに取り組めるよう信頼関係を継続していきたい。

改めて、本年度の活動にご協力いただいたすべての地区の皆様、南会津町伊南支所の皆様、福島県職員の皆様、獨協大学教職員の皆様に感謝申し上げます。指導教員である大竹先生にはご多忙の中、実証実験内容から事務手続きに至るまで様々な事柄にご指導を頂きました。来年度もメンバーの入れ替えがあるが、一度できたこの繋がりは今後も継続していきたいと考えている。